



大型水性デジタル印刷機を導入

小ロット生産の効率化、新規分野への進出も

株式会社アサヒパクテム

アサヒパクテム（滋賀県甲賀市、☎0748-67-1511）は2020年9月末、オーシャンテクノロジー（東京都中央区）を通じて中国Hanway社の高速スキヤニングデジタル印刷機「HighJet 2500B」を導入した。最大紙幅2500mmまで対応する段ボール印刷に適した水性インクジェットプリンタ（IJP）で、現在は社内試作が中心ながら小ロット生産の効率化、さらに新規分野への進出も視野に入れる。

導入機は拡張可能モデルで、京セラ製の4色プリントヘッドを備え、1.5～15mmの紙厚に対応する。オプションの赤外線乾燥ユニット、自動排紙装置も取り付けられている。滋賀県内の同業でIJP導入は珍しいが、武内文雄社長は「会社を成長させ、先駆者となるための投資。新しい設備により新しい発想を生み出したい」と抱負を述べる。

機種選定の決め手について、高原裕常務は「工場の設置スペースに取まり、ランニングコストとなるインクが安く、印刷仕上がりもきれいだった。通し回数が1パスから4パスまで選べ、コスト重視の印刷も濃度のある印刷も調整可能、乾きも早くて使い勝手が良いと感じた」と話す。

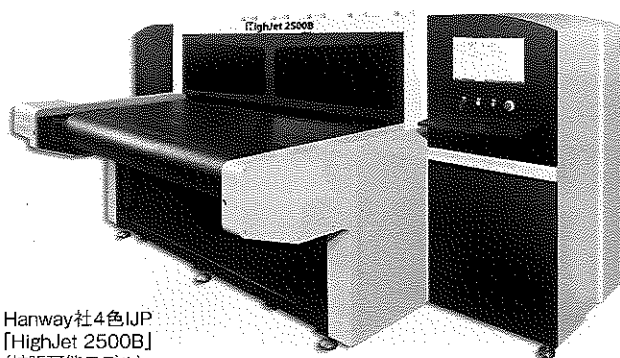
同社には旧型のフレキソ印刷機があるものの、数十枚単位やそれ以下の受注では、セットに時間がかかりロスも多く、IJP導入を検討するに至ったという。また、万が一にもフレキソ印刷機が止まった場合、応急的なバックアップとしても考えられる。

サイン・ディスプレイなど新た

な分野への進出を見込み、関連する展示会への出展も検討している。コロナ禍の昨年、足踏み式消毒液噴霧スタンド「アルシュー」を発売し、初のオリジナル商品として飛沫防止デスクシールド「パクテム」シリーズ（本誌2020年12月号で既報）を開発しており、パネル印刷についても他社との差別化を図る大きな武器になりそうだ。

同社では、売上の3割程度を強化段ボール製品が占め、トライウォール社のファブリケーター（代理店）も務める。しかし、強化段ボールの小ロット印刷は、ブリキの刷り込み板などを使う方法しかなかった。今回の導入で、ケアマークや製品名、社名・ロゴほか、カラー印刷を施すサービスも目指せる。

2019年秋に2200×4800mmのサンプルカットマシンを増設し、合計3台で小ロット短納期の加工に対応する同社。大ロットの外注先もあり、木材や樹脂素材と合わせた提案もできる。導入機は、こうした強みや付加価値を伸ばす印刷設備と位置付けられ、今後の相乗効果に期待したい。☎



Hanway社4色IJP
「HighJet 2500B」
(拡張可能モデル)